

渡部泰明

(わたなべ やすあき)

略歴

一九五七年、東京都生まれ。八六年、東京大学大学院博士課程中退。東京大学文学部助手、フェリス女学院大学文学部専任講師・助教授、上智大学文学部助教授、東京大学大学院人文社会系研究科助教授を経て、現在、同大学教授。博士(文学)。著書に、『中世和歌の生成』(若草書房、一九九九年)、『和歌とは何か』(岩波書店、二〇〇九年)ほか。九〇年、論文「藤原俊成における『姿』」などにより第一六回日本古典文学会賞受賞。



〈受賞のことは〉

本書に収められた論文は、東京大学赴任以降、研究を第一とした、どんなことでもたどころに教えてもらえる恵まれた環境の力によって、この世に押し出されたものばかりです。研究室の同僚はもちろんのこと、親しく教えを賜った研究仲間の存在も大きく、そうした方々の支援と教示に対し、このたびの受賞によって、具体的な形とともに感謝の意を表せることを何より嬉しく思います。

けっして謙遜して申し上げているわけではありません。私の研究が、自分の関心に答えたという、徹頭徹尾個人的な動機に基づいているために、常に他者に自分を委ね託してないと、自己閉塞を起こしてしまうことがわかっているからなのです。それは、和歌を持続させた力学とはどのようなもので、そこに詩的達成はどのように関わっているか、という関心でした。今後は、なぜ和歌は続いたかを和歌史全体から考えること、また、なぜ古典を学ぶのかという若い人たちからの問いに答えることを課題としく思います。今回の受賞は、そういう大それた目標を立ててもよい、自分なりの答えを出してみよと、勇気づけていただいた気がしています。ありがとうございます。